



2024 年度
第 35 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
パリ五輪の
不振種目
夕立を避けて
幸いか



2
スポーツ講師ではなく
体育専門
担当教師の
拡充が必要



3
アン・セヨン選手が
獲得した2つの
金メダル
「実力」と「勇気」



4
競技団体の
戦力分析も
まともにできない
大韓体育会長！



5
名前だけ「塾」の
幼少年体育施設
児童保護の
死角地帯



大韓民国スポーツの
根本的変化を
皆さんと共に
作って行きたいです
体育市民連帯と共に
していただけますか？



*

01 スポーツ京郷 2024.09.02

パリ五輪の不振種目、夕立を避けて幸いか



パリ五輪で不振な種目は今、国民の無関心の中で果たしてどのように過ごしているのだろうか。

現在、国民から強い叱責を受けている代表的な体育団体は、大韓体育会、大韓サッカー協会、大韓バドミントン協会だ。

大韓体育会は、李ギフン会長の過度な行動、上級団体である文化体育観光部との相次ぐ衝突などで、世論の砲火を浴びている。大韓サッカー協会はこの数年間、八百長への加担者への赦免、国家代表チームの不振と議論の中での監督交代、選手団内部の不和などで国民からそっぽを向かされている。大韓バドミントン協会は、アン・セヨンのパリ暴露で旧時代的な慣例が明らかになり、政界のターゲットにまでなった。

この3カ所とも体育団体の中で財政が多く、システムもそれなりに良いところだ。スターが多く、人気も多く、国民的関心も高い。ここで最近浮き彫りになった相次ぐ事件は、票心、人気で生存する国会議員に甘い餌食になった。この3カ所には、今回の国政監査が非常に恥辱で苦しい時間になりそうだ。

今、体育界に対する沸き立つ非難から脱したところはどこだろうか。あいにくパリ五輪で振るわない種目だ。

パリ五輪で韓国レスリングは初戦で全て負けた。8種目で優勝した日本と対比された。韓国陸上は出場選手が3人だけだった。体操はノーメダルだった。フェンシングはサーブルは善戦したが、伝統的に強いフルーレ、エペはメダルを獲得できなかった。バドミントンでは男子単・ダブルス、女子ダブルスが振るわなかった。ダイビングは一つの種目(11位)を除いて、すべて決選進出に失敗した。最近高い人気を集めるテニス、ゴルフも期待以下だった。水泳は15の細部種目に出場したが、2つだけ決選に進出しており、メダルは銅メダル1つが全てだ。団体球技種目の中で唯一、パリの舞台を踏んだ女子ハンドボールも1勝4敗に止まった。男女サッカー、男女バスケットボール、男女バレーボールはパリに行くこともできなかった。このような種目のうち、多数は今、国民の関心事の外に押し出された形だ。

国際舞台で競争力を失った種目をどうすればいいだろうか。ただ本人たちの領域だから放っておいた方がいいだろうか。それとも体質改善、構造調整を要求しなければならないのか。

体育界の改革は人気種目、現在話題になっている種目だけに集中してはならない。すべての種目にわたって行政的、財政的システムを変える方向で改革は進められなければならない。競技団体から骨身を削る自救策を打ち出さなければならない。政府支援・企業支援にこだわり、生存にこだわる慣行と体質は変わらなければならない。税金、基金で延命する態度を捨て、種目の底辺拡大、青少年選手の育成、各代表チームの競技力強化などに対して強力な対策を講じなければならない。自助策、発展案などに現実性、責任性、真正性を盛り込んだ体育団体だけが税金、基金を受け取る資格があるのではないか。

国民の関心を受ける一部の人気種目に対する批判では、体育界全般的な改革と成長は実現できない。本質と核心に対する変革を導き出すには、既存システムに果敢に手を加えなければならない。苦痛のない成長はない。

出典：

https://m.sports.naver.com/general/article/144/0000985796?fbclid=IwY2xjawFB36pleHRuA2FlbQIxMQABHbwIG4hZG-6DMV5A6xIGWFpdMX003mIr2j9nWF1CXRGrIx9eYT0GevJaA_aem_VtJJy3Sw8BI_MSyaJLwCVQ

02 韓国教育新聞 2024. 08. 26

スポーツ講師ではなく体育専門担当教師の拡充が必要



共に民主党のイム・オギョン国会議員が初等学校にスポーツ講師を義務配置するようにする内容の学校体育振興法改正案を代表発議すると、韓国教総（韓国教員団体総連合会）など教育界は正規教員拡充がさらに必要だとし、法案撤回を促した。

韓国教総は「生徒たちの身体活動経験を拡大するためには授業補助人材であるスポーツ講師ではなく正規教員拡充を通じた体育教科専門担当教師全面配置と学校体育施設拡充が必要だ」とし、「改正法案は撤回しなければならない」と26日明らかにした。同日、教総は法案撤回の意見書を議員室に渡した。

初等学校の体育活動を活性化するためには、趣旨に合わせて体育を教える教師の拡大が先だということだ。初等学校教師の資格証を備え、生徒の発達段階と初等学校体育教育課程に対する理解度の高い体育教科専門担当教師を拡大配置してこそ、体育時間数の確保はもちろん、充実化できるというのが教総の説明だ。

スポーツ講師の場合、一人で体育の授業を担当することはできない。教育界はむやみにスポーツ講師の数を増やし、学校体育の活性化が実現することもできないと見ている。

教総は「一部の市・道教育庁では教員定員縮小の余波でますます教科専門担当教師を減らし担任に配置しなければならない現実」とし、「体育教科専門担当教師確保のために教員定員縮小ではなく定員拡充に乗り出さなければならない」と批判した。

教育現場では体育活性化の最大の障害物として学校の体育施設の不足も挙げている。政府レベルの学校室内体育施設の設置・活用実態に対する綿密な調査と支援から施行されなければならないという指摘も出ている。教総も学生たちがいつでも安全に体育活動ができる十分な空間と安全設備を備えた体育館拡充に優先支援することを要求した。

教総は「ますます黄砂、粒子状物質、猛暑、酷寒などで運動場に出られない日が多く、日焼け止め使用の公示を受けられなかったからといって運動場授業を児童虐待で申告するという保護者の苦情まで報道される状況」とし「それでも学校に体育館がないところが多く、あっても一クラス程度だけ授業できるほど小さい場合が多い状況で、何の体育授業活性化になるか」と反問した。

続けて「初等学校体育活動に興味を高め、活動中心の体育教育がなされるためには過密学級、過大学校解消政策が必須」とし、「正規教員拡充を通じた学級当り生徒数縮小が先行されなければならない」と強調した。

出典：<https://www.hangyo.com/mobile/article.html?no=102434>

アン・セヨン選手が獲得した2つの金メダル、「実力」と「勇気」



今年のパリオリンピックのバドミントン女子シングルスで金メダルを獲得したアン・セヨン選手は、今年22歳の典型的なMZ世代です。アン選手は金メダルを取ってからMZ世代らしく勇気をもって乗り出し、大韓バドミントン協会の是非を一つ一つ指摘し、抗議しました。一波万波の波紋が韓国スポーツ界を強打しました。私はまずアン選手の勇気に拍手を送ります。彼女の勇気にバドミントン協会はもちろん、韓国体育会まで「お年寄りの没落」が始まったようです。

いや、年寄りたちが没落することを願っています。そうしてこそ変わることができます。以前はそうだったとか、協会の支援がなかったら世界的な選手に成長できなかったとか、誰よりも大きな恩恵を受けたとかというアプローチでは問題をきちんと把握することができません。また、発展的な解決策を考え出すことはできません。今は年寄りではなく、アン選手の言葉のように対話し、耳を傾けてくれる年甲斐のある大人がもう一人いなければならない時です。

スポーツ組織は徹底した位階秩序社会です。優れた実力を備えていたため、中学3年生だった2017年に国家代表に初めて抜擢されたアン選手は、この7年間ずっと代表チームで雑用を引き受けていたことが親によって知られました。先輩たちの切れたラケットの紐をいちいち持っていくのはもちろん、一部の先輩たちの下着の洗濯も代わりにしたということです。ハードな練習の後に休息が必要な若い選手がどれほど大変だったのでしょうか。個人の人権を何よりも重視する21世紀に、まだこのような悪習が慣例という名分で残っているとは、聞いて信じられませんでした。

それだけではありませんでした。アン選手は金メダルを獲得した後、こんなインタビューを残しました。「けがは思ったより深刻だった。治らなかった。そして、自分の負傷を安易に考えた代表チームに失望した」と語っています。また「この瞬間を最後に代表チームとはずっと一緒に行くのは難しいのではないかと思った。後で詳しくお話できる機会がありそうだ」と悔しさをそのまま表わした。

もしアン選手が30代を超える年齢だったり、協会や体育会の顔色を伺う選手だったらきっと沈黙していたでしょう。これから選手生活をする上で受ける不利益を先に考えたのでしょうか。アン選手は若いので、堂々としたMZ世代なので自分の苦しみを隠しませんでした。改善を要請しました。これに対して政府は、チョン・ジンソク大統領秘書室長が主宰した首席秘書官会議で、アン・セヨン選手の暴露と関連した内容について話し合ったということです。

文化体育観光部として真相調査にも乗り出したようです。うわべだけのことで、体面を保つ程度で終わってはいけないことです。これに対抗して大韓バドミントン協会がアン・セヨン選手を調査するとしていて、「調査を受ける不正団体が何の調査をしているのか」と指摘され叱られたようです。民主党の文体委員らと非公開の対話まで交わしたというから、すべてが一つ一つ明らかになり、一罰百戒の結論が出ることを願います。

アン選手の暴露で協会が代表チームの選抜に介入し、役員の旅費にお金をどんどん使った事実と、協会が犯した失策が引き続きネチズン捜査隊によって発掘されています。ことが起こると、オリンピック途中、大韓バドミントン協会の役員らはメディアや世論の集中攻撃を避けようと選手団より早く帰国するとい

う、逃げ出す姿まで演出しました。これは正々堂々としていない老害の面皮のための逃避で、国民のひんしゅくを買ったのではないですか。真実は明らかになるもので、何かで隠すことはできません。

私はアン・セヨン選手の問題提起に対するバドミントン協会や大韓体育会の取り組みが大人らしくなかったと思います。22歳の女子選手の理由のある抗弁をどうして大の大人のように抱いてあげられず、過剰に対応するのか。パリで彼女に叱責の言葉を浴びせるよりは、暖かく抱いてあげて問題解決に乗り出していたら、どれほど美しかっただろうかと思います。そのようにできなかったということは、自分たちが隠さなければならない、明らかになってはならない問題があまりにも多いという傍証です。

これからは問題解決の意志がある真の大人とMZ世代が乗り出して、アン・セヨン選手を守らなければなりません。そうしてこそ不合理な世の中を変えることができます。世代間の壁を崩し、アン・セヨン選手を守らなければならない時です。

慶南大学 鄭イルグン碩座教授、UMFF 執行委員

出典：<https://www.ksilbo.co.kr/news/articleView.html?idxno=1007425>

04 京畿新聞 2024. 08. 26 ファン・スヨン学校体育振興研究会会長 【寄稿】競技団体の戦力分析もまともにできない大韓体育会長！



2024年パリ五輪で大韓民国選手団の善戦奮闘は国民に大きな喜びと感動を与えた。長い間流した汗と涙の結実で国威を宣揚し、国民和合に寄与した真の英雄たちに熱い拍手を送る。

ところが、今回の五輪出場を控え、大韓体育会の戦力分析は完全に外れた。当初の見通しと比べて金メダル2-3個程度は差が出る可能性もあるが、3倍近くメダル数が広がったのはどんぶり勘定式にメダル分析をしたと見ることができ、韓国選手だけでなく他国選手の戦力に対する情報もまともに把握できなかったためだ。一体大韓体育会は何を根拠に韓国選手団の金メダル目標値を5つに定め、国民に発表したのか？

大韓体育会が五輪の展望を悲観的に提示したのは、五輪惨敗を予想して「エリート体育危機」云々し、エリート体育の不振を口実に五輪が終わった後、責任を回避するためにわざと目標値を過度に下げたのではないかと疑わざるを得ない状況だ。

大会に出場する前に金メダルの目標を5個と発表した李ギフン会長の底意が何かは分からないが、当時の李ギフン会長の金メダル5個縮小発表は国民の士気を低下させ、4年間血汗を流して苦勞した選手たちの競技力をけなして、選手たちに失望感を与え、胸に大きな傷を与えた。

また、出場選手団が48年ぶりに144人と史上最小に減ったにもかかわらず、役員派遣規模は118人でそのままで、予算も東京大会64億より2倍近く増えた122億で、役員たちはビジネスクラスを利用する特恵を与え、実際に試合をする体格の大きい選手たちは座席が狭くて不便な3等席で利用するようにして、選手たちを虐待するという叱責も受けた。理由の如何を問わず選手が役員より優先なのに、選手たちに配慮せずに役員たちだけが特恵を与えたことは主客が転倒したと非難されて当然だ。

大韓民国のスポーツ界が暴力と無秩序で腐敗してきた国民の指弾を受けたことを体育会長は覚えているのか？ 事故が持続的に起きても何の対策も立てず、事件が起きるたびに事件の縮小とマスコミ報道の防止だけに汲々として、マスコミと国民の叱責を受けたのではないか？

韓国のエリートスポーツの沈没は、学校体育振興法を作っておいて少年体育大会の廃止。学校の運動部解体、合宿訓練禁止で優秀選手を輩出する通路自体を塞いでしまったのが原因だ。エリートスポーツが国家発展に寄与した肯定的な評価は考慮せず、エリート選手の育成が非教育的だと生徒たちの学習権と人権侵害を防止するために作ったという学校体育振興法がついに大韓民国の学校体育を荒廃化させ、競技力を衰退させ、その結果エリートスポーツの没落を招いたのだ。

結論的に、韓国が国際競技であるアジア大会と世界オリンピックで8年の間に競技力が大きく低下したのは、大韓体育会長のスポーツと体育政策に対する専門性不足と無知の結果と評価されている。このような大韓体育会の国際スポーツ競技力の沈没は、血のにじむように練習してきた国家代表選手たちと韓国国民の士気を低下させ、全世界に対する大韓民国スポーツ強国の地位を失墜させたのだ。

大韓体育会を指導・監督する政府の文化体育観光部長官を無視するような無礼で傲慢な破倫行動をする者が果たして大韓民国体育団体首長の資格があるのか？ 大統領はこれを機に、大韓体育会と競技団体の運営全般に対する不条理の清算と非合理的な選手管理の積弊を清算するための徹底した監査を通じて、大韓民国の体育発展のための一大革新案を講じることを元老体育人たちは期待している。

出典：<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=806888>

05 京畿新聞 2024. 08. 27

名前だけ「塾」の幼少年体育施設・・・児童保護の死角地帯



テコンドー道場、体育大学入試学院などスポーツ施設は「学院」という名称を使っているが、学院法の適用は受けず教育次元の管理監督が不在となっていることが明らかになった。これに対し、対策作りが急がれるという指摘が出ている。

27日、京畿新聞の取材を総合すると、テコンドー道場や体育大学入試塾などのスポーツ施設は、塾法の適用を受ける塾施設ではなく、スポーツ施設や自由業種などに分類されている。

しかし、該当スポーツ施設の利用者は幼少年が大部分を占めている。実際、国技院世界テコンドー研修院の資料によると、国内1万3000ヶ所余りのテコンドー道場の90%以上が幼児・小学生を対象に運営している。

現在、スポーツ施設は深夜の教習時間の制限、施設周辺の有害施設の制限が行われていない。児童性暴力予防教育など研修もやはり塾より狭く行われる。一般塾の場合、午後10時以降の運営が制限されるが、体育施設の場合、0時から午前5時を除けば、すべての時間に利用が可能だ。

また、塾は塾長と講師を対象に児童性暴行犯罪などの研修を進めているが、テコンドー道場の場合には師範を除く「館長」だけを対象に研修を実施していることが分かった。

塾は規模によって近隣の有害施設の設置が制限されるが、体育施設や体育大学入試塾など自由業種はこのような制裁が事実上皆無だ。また、塾長、塾講師などは児童虐待を犯せば受けた刑の2分の1を加重処罰されるが、体育施設運営者は加重処罰が難しい。

実際、7月12日、楊州市のあるテコンドー場で3歳の子供が死亡する事件が発生し、このような法的死角地帯に対する憂慮は大きくなっている。

水原地域のある保護者A氏は「テコンドー塾と呼ばれるところが塾ではないとは話にならない」とし、「修練生のほとんどが子供であり、館長ではない師範が直接指導するところも多いが、児童性暴力など児童虐待教育を受けないということも衝撃的」と伝えた。

龍仁地域のある保護者B氏も「体育大学入試塾も塾という名称を使用しながら自由業種に分類されるということが理解できない」とし、「入試競争防止などの理由で京畿道は10時以後に塾運営が禁止されるが、体育大学入試塾は入試のための塾なのに10時を過ぎても制裁を受けないというのが矛盾的」と批判した。関連機関は法的根拠がなく、幼少年の利用率が高くてもスポーツ施設を管理できないという立場だ。

水原市関係者は「区庁では民間体育施設登録業務だけを進めている」とし、「このような部分が補完されるためには法的根拠がなければならぬので立法が優先だ」と話した。

京畿道教育庁関係者も「学院法が適用されれば管理監督をするだろうが、教育庁は行政機関であるため管理する法的根拠自体がない」として立法の必要性を強調した。

これに対し専門家たちは、幼少年利用比率が高い体育施設にも塾法のような管理監督体系を適用する必要があると口をそろえる。

児童虐待専門のキム・シン法務事務所のウンユル弁護士は「テコンドー道場は幼少年利用比率が高いが、児童虐待関連法は適用されていない」として「大部分が学院形態で運営される幼少年対象体育施設にも学院法の一部を適用し教育的次元の管理監督体系を適用すれば児童虐待予防に役立つだろう」と提言した。

ト・スンスク真の教育のための京畿支部長は「最近、楊州テコンドー場館長児童虐待事件など体育施設で児童虐待問題が論難になっている現時点を契機に立法を通じて該当問題を補完しなければならない」と主張した。また「体育施設は子供たちが体で遊び回って指導者と体で接触することが多いだけに児童虐待発生の可能性も高く、非常状況で代替システムも用意されなければならない」と付け加えた。

ク・ジャソン全国教育希望ネットワーク代表は「子供たちを対象に教育する機関であるにも関わらず、地方自治体所管ならば教育的な管理監督が不足せざるをえない」として「ただしテコンドー道場などは全国的にあまりにも多いので教育当局に含ませるよりは地方自治体などが幼少年利用比率が多い一部施設にCCTV設置義務化など積極的管理体系を導入することも方法」と提言した。

これに対しテコンドー協会関係者は「児童虐待が起きれば協会次元で懲戒を下している」として「今回の楊州テコンドー場児童虐待事件以後、協会次元で師範まで対象を拡大し児童性暴力予防、人権など義務教育を実施している。道場別に安全規則などを作って配布するなど持続的に補修教育を進行する」と話した。

出典：<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=807143>

06 週間スポーツニュース

「児童虐待容疑」 ソン・ウンジョン監督、コーチら 3 人略式起訴… 治療プログラム履修命令併科

<https://www.xportsnews.com/article/1899604>

「虫を食べろ」… 高麗大学「ラグビーコーチ」、昨年は選手に暴行

https://news.jtbc.co.kr/article/article.aspx?news_id=NB12212737

事故と火災、圧迫を乗り越えたチョン・ホウォン、障害者スポーツの歴史を新しく書いた[パリパラリンピック]

https://www.newsis.com/view/NISX20240903_0002873154

障害学生 e スポーツオリンピック「全国障害学生 e フェスティバル」開催

<https://game.mk.co.kr/news/it/11108267>

秋の街角スポーツ島済州各種大会「ブンソン(豊城)」

https://www.nocutnews.co.kr/news/6205653?utm_source=naver&utm_medium=article&utm_campaign=20240903100405

第 24 回クムナム体育大会、全羅南道木浦でスポーツ技量を競う

<https://sports.donga.com/article/all/20240903/126819310/1>

800 億ウォン以上稼いだ PGA ツアー、シェフラー、今年の米スポーツ選手収入 2 位

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20240903066600007?input=1195m>

2024 コリアオープンバドミントン選手権大会成功… 木浦市、スポーツ・観光都市

https://www.pressian.com/pages/articles/2024090311170069797?utm_source=naver&utm_medium=search

できない、できないという言葉をおぼれたキム・ファンテ、腕なしで成し遂げた鉄人 3 種完奏

<https://sports.khan.co.kr/article/202409030924003?pt=nv>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための

体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407号

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>